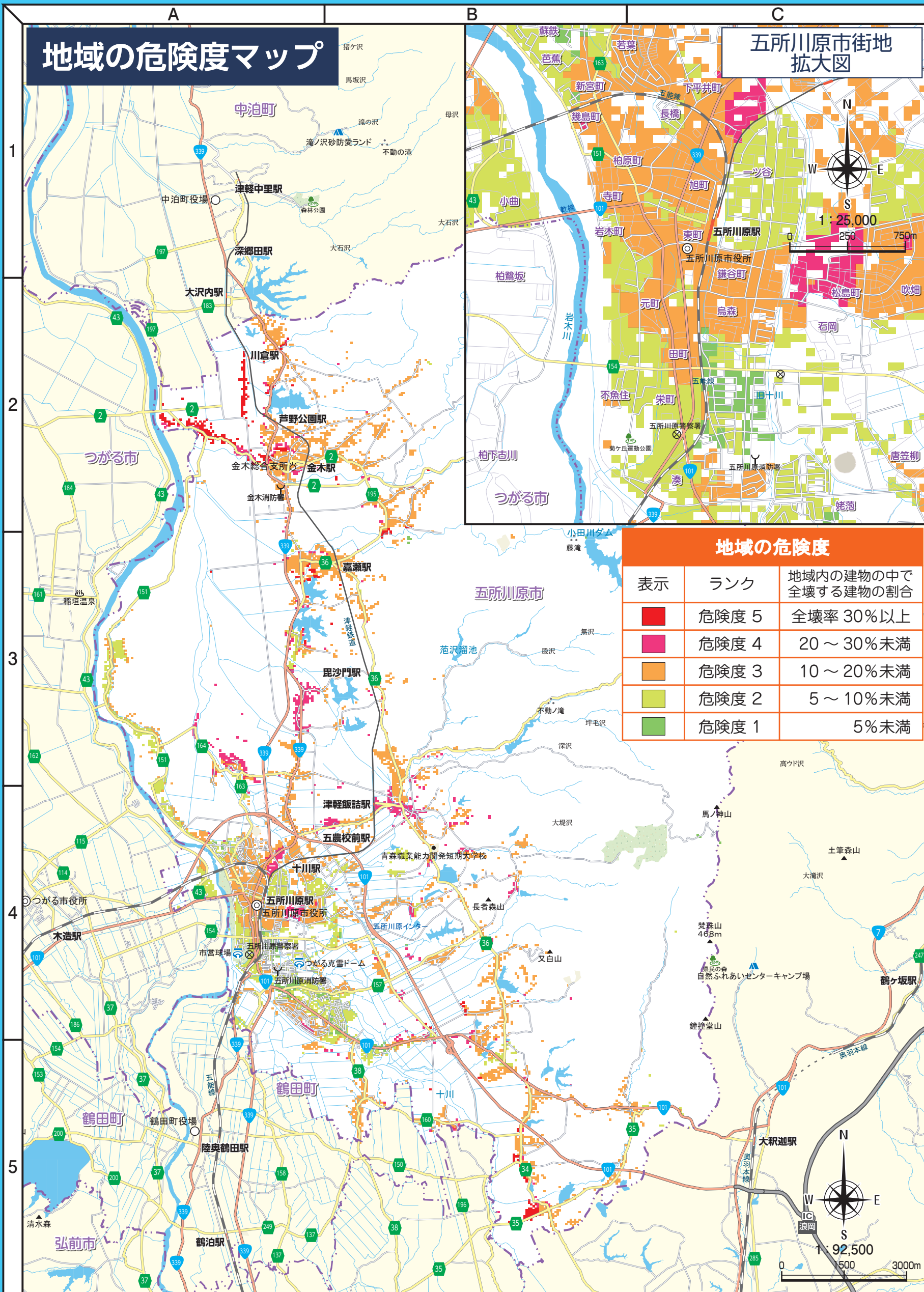
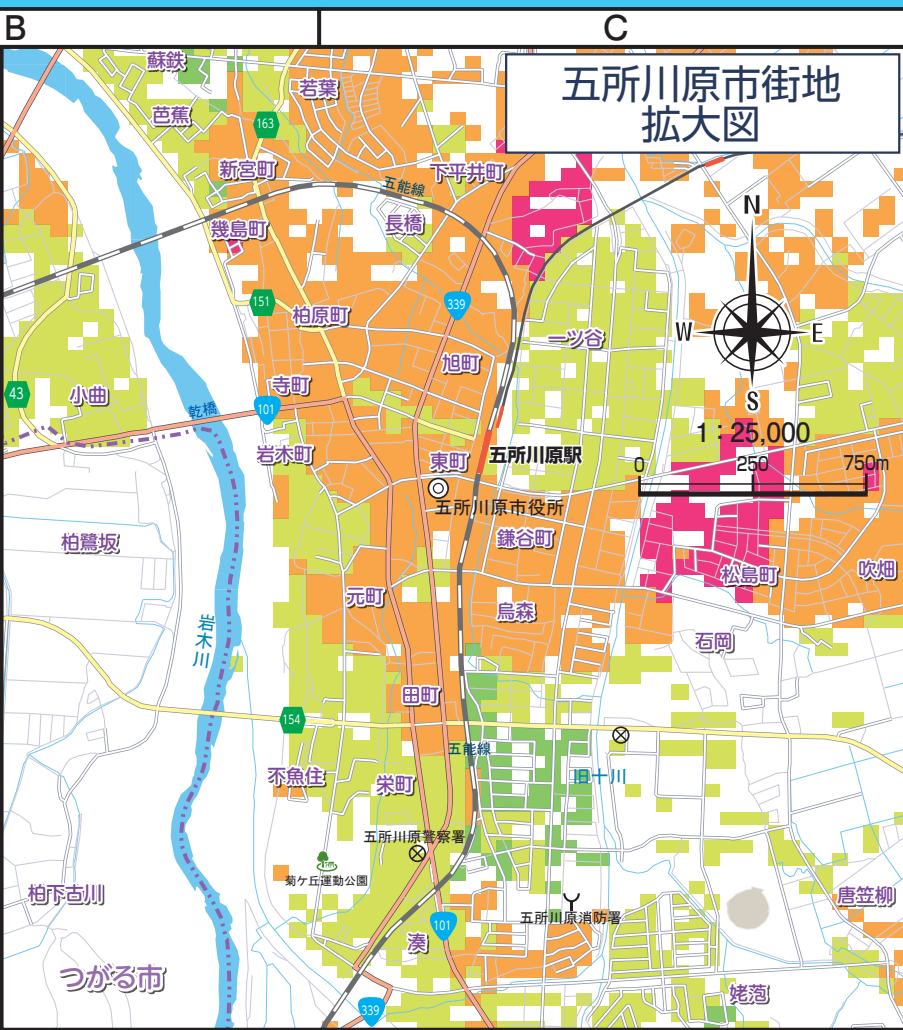


地域の危険度マップ



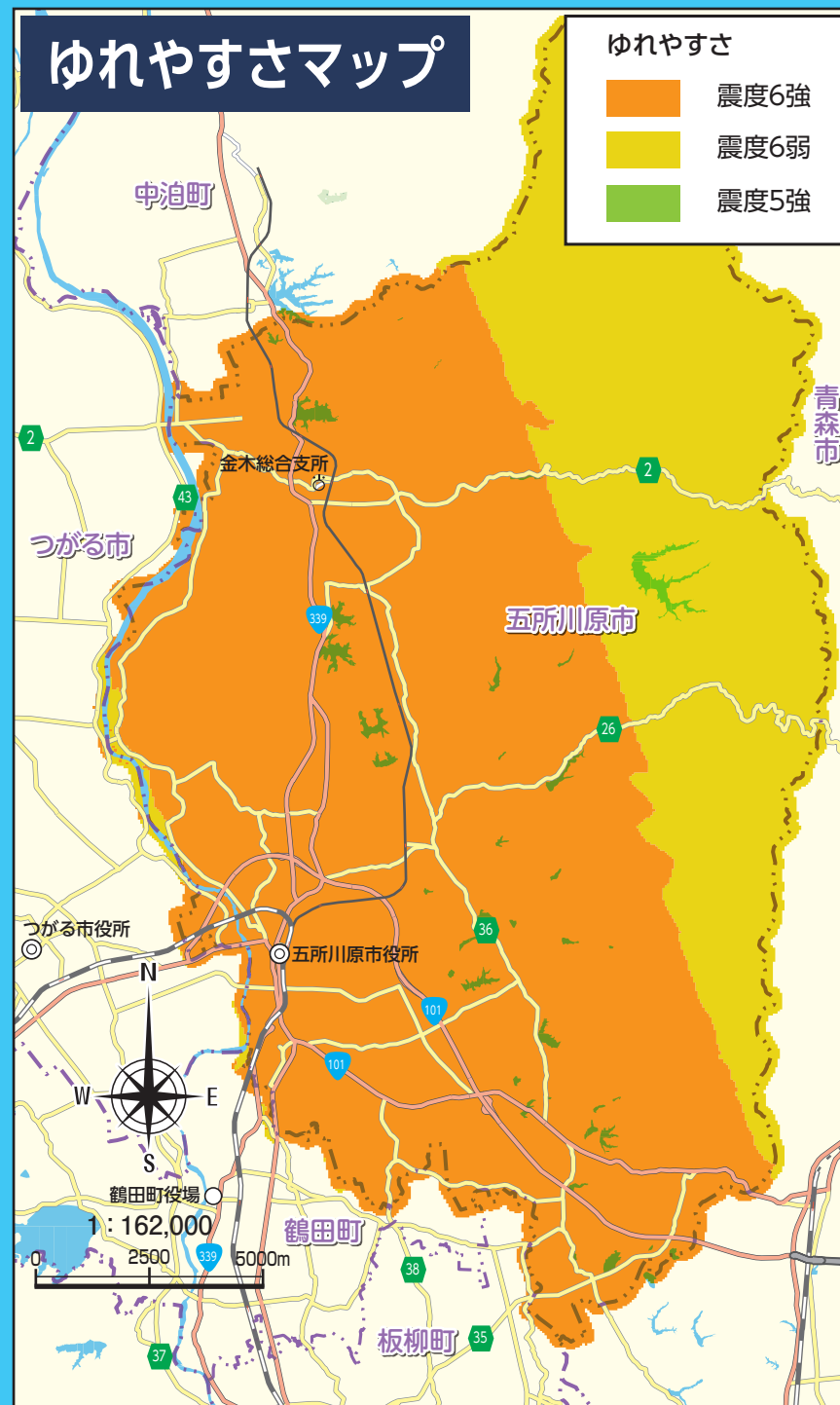
五所川原市街地拡大図



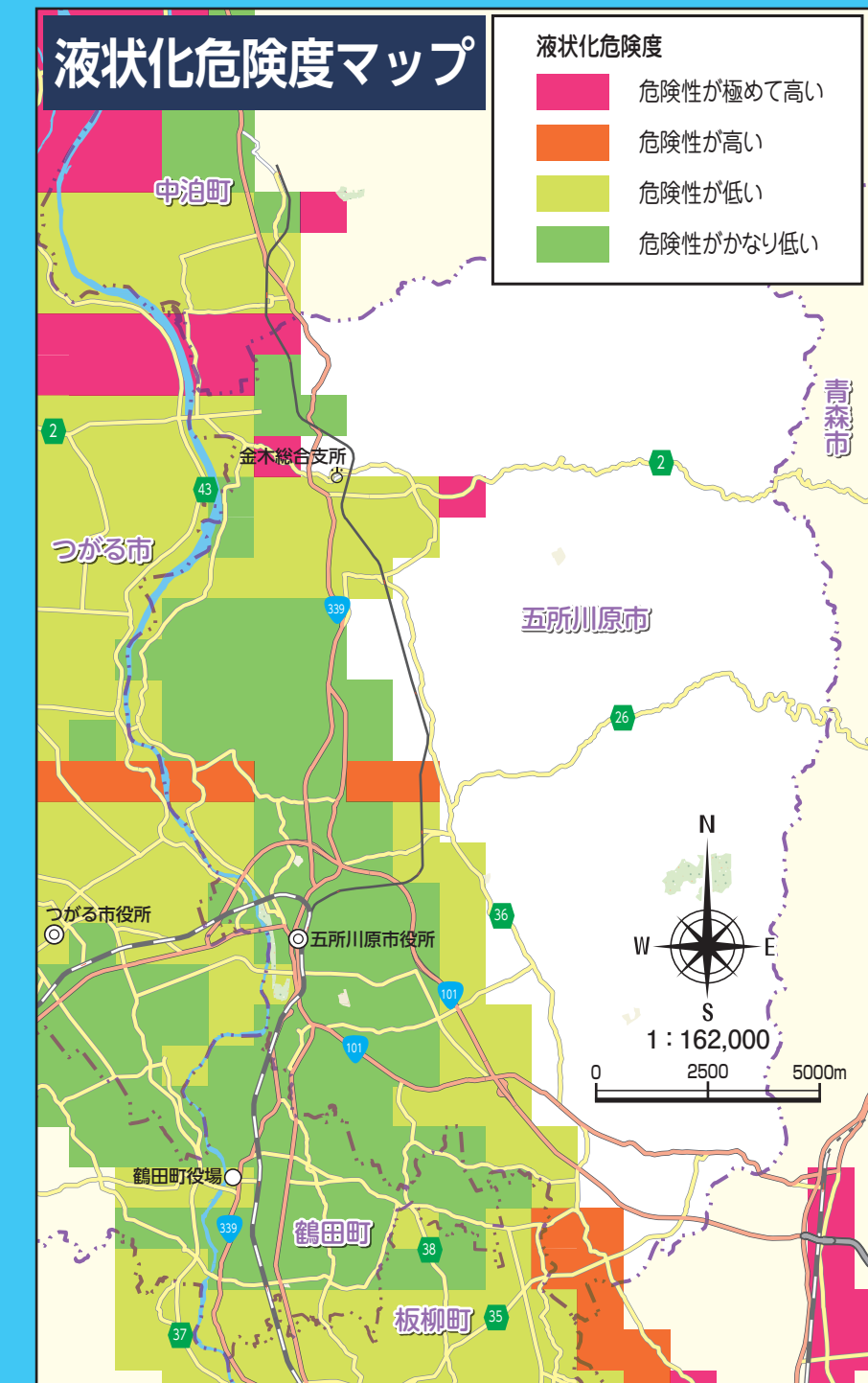
地域の危険度

表示	ランク	地域内の建物の中で全壊する建物の割合
■	危険度 5	全壊率 30%以上
■	危険度 4	20～30%未満
■	危険度 3	10～20%未満
■	危険度 2	5～10%未満
■	危険度 1	5%未満

ゆれやすさマップ



液状化危険度マップ



震度とゆれの状況

<p>0 【震度0】 人は揺れを感じない。</p>	<p>4 【震度4】 ほとんどの人が驚く。 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 座りの悪い置物が、倒れることがある。</p>	<p>6弱 【震度6弱】 立っていることが困難になる。 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</p>
<p>1 【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p>5弱 【震度5弱】 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 棚にある食器類や本が落ちることがある。 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。</p>	<p>6強 【震度6強】 はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多い。 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。</p>
<p>2 【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p>5強 【震度5強】 物につかまらなさと歩くことが難しい。 棚にある食器類や本で落ちるものが多い。 固定していない家具が倒れることがある。 補強されていないブロック塀が崩れることがある。</p>	<p>7 【震度7】 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多い。</p>

この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。
気象庁震度階級関連解説表 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/shindo/kaisetsu.html>